

資料1

「2030デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会
（第13回）R8.3.2

大学図書館におけるAIへの対応

2026年3月2日

東京大学附属図書館 大山 努

大学図書館におけるAIへの対応に係る検討について（案）

第12回 資料3

【前提】

○ AIの利活用にはプラスの面とマイナスの面があるが、大学の教育研究活動にも浸透してきている状況を踏まえると、マイナスの面を気にしすぎて過度に慎重になるのではなく、大学図書館もAIをどのように使っていくかを能動的に考えていくことが重要。

【主な観点例】

(1) AI時代における大学図書館

- 1 AI時代における大学図書館の役割とは何か。
- 2 今後、大学でAIの利活用によって行われる教職員・学生向けサービスの中で、大学図書館はどのような役割・機能を果たしていくことが求められるか。
- 3 AIの利活用が、大学図書館間の連携にどのように寄与するか。
- 4 AIが教育研究活動や社会活動に急速に浸透してきている状況を踏まえて、デジタル・ライブラリー像を修正すべき点等はあるか。等

(2) 大学図書館のサービス業務・管理運営業務へのAI利活用

- 1 AIの利活用により、どのようなサービス業務や管理運営業務で、効率化や高度化が見込まれるか。また、どのようなサービスが新たに創出できるのか。
- 2 AIの利活用になじまない、あるいはAI技術を活用しても効率化や高度化が見込めないサービス業務や管理運営業務は、どのようなものがあるか。等

(3) AIに対する大学図書館の貢献

- 1 AI基盤モデルの高度化のために、大学図書館はどのような貢献ができるのか。
- 2 教職員や学生のAIリテラシー向上のために、大学図書館はどのような役割を果たすことができるのか。等

(4) AI時代における大学図書館職員

- 1 AI時代において、学習支援や研究支援に携わる大学図書館職員像とはどのようなものか。
- 2 AIを活用したサービス業務や管理運営業務において、当該業務に従事する職員には、どのような知識・スキルが必要になると考えられるか。
- 3 AI時代におけるデータ・キュレーター等の研究データマネジメント業務において、大学図書館職員はどのような役割で貢献できるか。そのために、どのような知識・スキルが必要になると考えられるか。
- 4 その他、AIの急速な浸透に伴い、新たに期待される業務は何か。等

●前提：学生、研究者はAIを積極的に活用・習熟

【文部科学省】

- ◆大学・高専における生成AIの教学面の取扱いについて（2023.5）
適切な活用を推奨
→各大学でガイドライン策定
- ◆ AI for Science の推進に向けた基本的な方針について（2025.12）
科学研究サイクルをメインループとして、その内側で実行される個別/特化のループと、外側を取り巻く社会的プロセスのループでもAI活用が進む

【東京大学】

- ◆AIツールの授業における利用について（2023.4）
- ◆東京大学の学生の皆さんへ：AIツールの授業における利用について（2023.5）
- ◆東京大学における生成AI利用に係るセキュリティガイドライン（2024.3）
- ◆全学構成員向けの生成AIサービス（2023.10～）

⇒利用者の行動様式を把握

⇒大学の方向性に沿った対応～「図書館」に閉じない対応

● 大学図書館のサービス業務・管理運営業務へのAI利活用

◆ AI活用業務

- ・ レファレンスサービス（AI司書）
 - ・ 文献探索
 - ・ 情報リテラシー教育
 - ・ 多言語対応サービス
 - ・ 目録／受入・除籍業務／館内業務（自動化・効率化）
 - ・ 運営データ管理・活用（分析・可視化）
 - ・ 研究・教育支援（従来の図書館業務から越境）
- ⇔非AI業務・機能：場の活用、対人コミュニケーション

◆ 効果・影響

- ・ 合理化・効率化／機能強化・拡大／新規機能

◆ 活用レベル

- ・ 個人利用～各館内～業界標準化
⇒図書館機能／職員の役割／組織構成の変容

● 大学図書館のサービス業務・管理運営業務へのAI利活用

- ◆ 個人～（各館担当） [東大附属図書館事例]
 - 目録業務へのAI利用
 - ・ 廃刊なのか不明の古い雑誌の情報を知りたい。(copilot)
 - ・ ほぼ同名の著者が同一人物か否か (copilot)
 - ・ 難解な文字情報の読み取り、翻訳
(chatGPT、copilot、 Google 翻訳)
- ◆ 事例共有～対応検討～標準化
 - ・ これからの学術情報システム構築検討委員会
AI を活用した次世代検索サービスの検討と実現について
 - ・ 国立大学図書館協会
資料委員会、システム委員会、次期ビジョン
 - ・ 図書館外
学内方針、学内連携、NII、商用システム
- ◆ 大学図書館機能の変容
 - ・ デジタル・ライブラリー

○東京大学デジタル図書館構想

東京大学デジタル図書館構想（フレームワーク）～第4の拠点図書館構築をめざして～

デジタル図書館とは：デジタル空間を舞台とし、新たな機能を持つ図書館

（イラスト版）

教育・研究分野における一層のデジタル・トランスフォーメーションに対応するため、デジタル図書館の構築が求められている。



デジタル図書館の目的：図書館機能の一層の強化と高度化をはかること

デジタル図書館の位置づけ

- デジタル図書館は、東京大学にある30の図書館・室を繋ぐ新たな図書館
- デジタル図書館と既存の図書館は共存し相互に機能強化をはかる
- 3拠点に繋がる、第4の拠点図書館と位置付ける

デジタル図書館の特徴

- 完全にバーチャルな図書館
- 24時間、どこでも図書館
Library 24 hours, anywhere

創出すべき効果

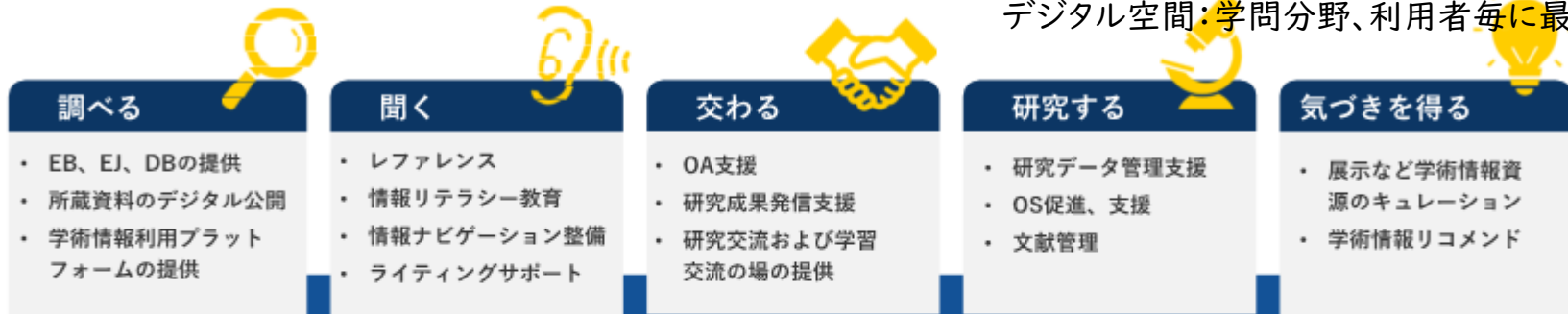
UTokyo COMPASS 2.0

東京大学における教育・研究活動を支える学術情報基盤を時間的・空間的に拡充することで、本学の知的生産力を高めていく

○東京大学デジタル図書館構想

■ ユーザ行動からみる「デジタル図書館」が備えるべき主な機能

デジタル空間：学問分野、利用者毎に最適化



【上記の機能を実現するために必須となる要件】

- 生成系AIなど最新デジタル技術を活用したサービスの提供
- 障害のある人はもちろん、あらゆる利用者にとって使い勝手の良い制度・サービスの提供（バリアフリーの推進、ユニバーサルデザインの導入等）
- 学内他部署や学内サービス・支援（開発中のものを含む）との連携・協力

東京大学附属図書館

30図書館・室
コンテンツ
スペース
スタッフ

デジタル・コンテンツ
電子ジャーナル/書籍
デジタル・アーカイブ
機関リポジトリ

+

学外機関

デジタル・コンテンツ

○東京大学デジタル図書館構想

2025年6月

「未来の大学図書館を AIと考えよう :2050年の東大図書館を描くワークショップ」

2030年の図書館を考えるコンペティション キックオフイベント

未来の大学図書館を AIと考えよう

2050年の東大図書館を描く

東京大学附属図書館では、今後いっそうDXが進むことを見据え、未来の大学図書館のあり方について検討を進めています。そこに利用者からの声やアイデアを取り入れるため、今年秋に「2030年の図書館」を考えるコンペティションを開催します。それに先立ち、キックオフイベントとしてワークショップを実施します。テーマは、2030年よりも更に未来の「2050年の大学図書館」！一緒に図書館の未来を想像してくれる学生の皆さん、参加をお待ちしています。

いつ 2025年6月6日（金）13:00 - 17:00

どこで 総合図書館 別館ライブラリープラザ
*開催方法は集合形式です

誰が 参加対象：東京大学の学生・院生（定員40名）

何を

- 「SFプロトタイピング」という手法を用い、生成AIを活用しながらテーマに沿ったグループワークを行います
- 渡邊英彦教授（情報学環）及び渡邊研究室の方のほか、学内教員にもご参加いただく予定です

Check!

- *当日は、UTokyo Wi-Fiに繋がるノートPCやタブレット端末を持参していただきます
- *本ワークショップ参加と、秋のコンペティション参加は連動していません（本ワークショップへの参加がコンペティションの応募条件になることはありません）
- *SFプロトタイピングやAI利用の経験、専門知識がない方も参加いただけます

●申込み方法、詳細情報 以下のサイトをご覧ください
<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/event/20250606>

●申込期日：2025年5月30日（金）

- ・定員（40名）に達した場合は早めに締め切ります
- ・申込みは、コンペティションを想定したグループ単位ではなく、個人でお申し込みください

●お問合せ
附属図書館総務課企画渉外チーム
dltf-event-group@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

2025年7月～

デジタル図書館コンペティション

「東大図書館をデザインせよ！ Next Library Challenge 2030」

コンペ開催中

東大図書館をデザインせよ！ Next Library Challenge 2030

- ✓ 2030年の大学図書館に求められるサービスや機能に関するアイデア、プロダクトのコンペティションを開催中です。「考えてみた部門」「作ってみた部門」の2部門で皆さんのひらめきを募集しています。
- ✓ エントリーできるのは東京大学に在籍している学部生・大学院生の皆さん。個人でもグループでも、どちらでもOKです！
- ✓ 提出期限：2025年10月6日
審査結果発表は2025年12月を予定
- ✓ 副賞（研修費用）

最優秀賞	50万円
部門賞	25万円
健闘賞	5万円

コンペティションの詳しい条件やエントリー方法などは、附属図書館ウェブサイトで案内しています
<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/event/20250606>

【問合せ】附属図書館総務課
dltf-event-group@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

2027年に150周年事業の一環として
デジタル図書館のプロトタイプを公開予定

● AI時代における大学図書館職員

◆職員個人のスキル

- ・ AIリテラシー

図書館業務への活用を検討・企画・設計するため

- ・ 情報システム、データ管理・活用
- ・ 情報倫理・ガバナンス、著作権管理・処理
- ・ 特定の学問分野に対する専門性
- ・ コミュニケーション力

変化する環境下での利用者支援、図書館外との橋渡し

⇔定型的な業務の軽減 → 新規課題へ振り分け

◆職員の位置付けの多様化

- ・ 図書館常勤職員だけでは対応困難
- ・ 非常勤職員、特任職員、研究者、他部署の一層の参画
- ・ 複線的な人事制度や学外人材の登用

● AI時代における大学図書館職員

◆ 「図書館」機能の変容

- ・ 研究力強化、教育充実のための手法の変化
- ・ 「図書館」（自前のコンテンツ・場・人材）と外部リソースの融合～あいまいな境界

◆ 組織・体制

- ・ 既存（管理部門、サービス部門）：
AIによる効率化・省力化によって縮小、再編
- ・ 新規（システム・データ担当部門、教育・研究支援部門）：
図書館内に留まらない、他部署との融合・再編
- ・ 柔軟な連携・協力体制：
学内人材（研究者、専門的職員、学生）と多様な関係を構築（プロジェクト、委員会、WG,TF）

⇒ 「図書館」外へ積極的に働きかけが必要